

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471200667		
法人名	有限会社 三輝		
事業所名	グループホーム 米山		
所在地	宮城県登米市米山町善王時相ノ田30-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山に囲まれ四季を感じ取れる環境にあります。暖かい日には、散歩やドライブなど入居者様と出掛けたりしています。又、畑で収穫した野菜を皆で調理して美味しく食べています。ヒヤリハット、事故報告にも力を入れて些細な事でも提出する事により、気づきや問題点など職員間で話し合い解決しています。入居者様、1人1人担当職員が付き、買い物支援や困っている事など相談にのり、安心、安全に生活して頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな山間部に立地し、近くには災害協定を結んだ福祉施設がある。ホームの理念は「一人ひとりを尊重し、思いやりの心を持ち生活する」「明るく、楽しく生活する」「地域と共に生活する」である。利用者も職員も共に楽しく過ごせる様、日々のケアに当たっている。職員は利用者と一緒に食事をとり、食後は利用者が自ら食器を台所に運んだり、洗濯物をたたんだりと持てる力を活かして生き生きと過ごしている。職員は担当制であり、一人ひとりに寄り添い、利用者の思いに耳を傾け、細やかな対応を心掛けている。また、年1回行われている家族アンケートは回収率も高く、家族の悩みや不安、ホームの満足度など真摯に受け止め、結果を運営推進会議等に提示し、ケアの質の向上に繋げている。有事の際の利用者の安全確保のために、地域の自治会や商工会、福祉施設と災害協定を結んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH米山 ）「ユニット名 グループホーム 米山 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念は台所に掲示し常に目に届くと同時に介護理念を念頭に仕事をしています。	理念は、2年前に職員で話し合い見直しを行い、玄関・台所・事務所に掲示し、確認している。利用者の希望や意向を尊重し、寄り添うケアに努め、利用者と職員が笑顔で楽しく生活できる支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には入居者のADLを考慮し参加出来る行事であれば参加させて頂く事とし、掃除、避難訓練には職員が参加し月1回のホーム便りでは近況報告をしています。	自治会に加入し、地域の行事、一斉清掃・避難訓練・敬老会等に参加している。月1回季節の花名をタイトルに取り入れたホーム便りを発行し、区長を通して地域の全世帯に配布し、近況報告をしている。地域住民の理解が深まるツールになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時に施設で出来る支援内容を職員地域の代表(区長、民生委員)と運営推進会議などで話しあっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施しており事故報告、ヒヤリハットの報告も随時しております。欠席した委員には議事録を後日郵送しております	2ヶ月に1回開催している。市職員・地域包括職員・区長・民生委員・家族・職員が参加している。行事・利用者状況・事故等を報告し、意見、要望を聞いている。意見を活かした例として地域との災害協定締結がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業や研修などで分からない事は電話や直接窓口に出向き指導を頂いています。	市とは更新時の手続きや身元引受人がいないケースの相談をするなど連携が図られている。市主催の研修にも参加している。市職員が運営推進会議にも出席しており、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修などに参加し拘束のないケアを工夫、検討しています。日中、玄関を施錠せず過ごして頂いています。	身体拘束をしないケアのマニュアルがあり、研修も行っている。利用者の尊厳を大事にし、日々のケアに当たっている。玄関の施錠は19:00～翌朝6:30の夜間のみである。外出をしたい様子の利用者には、一緒に散歩したり見守りに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し職員間で虐待が見過ごされないように注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の入居者がまもりーぶ、2名が日本ライフ協会を利用しており円滑に利用出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約などは家族に十分に説明を行い疑問不安の解消に努め納得が行くまで話し合いトラブルにならない様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回無記名での家族アンケートを実施し結果は運営推進会議などで公表、話し合いを持っています。ご家族にも郵送しています。	意見箱は玄関に設置している。運営推進会議や、毎月の利用料の支払い時に面談し意見や要望を聞いている。年1回家族アンケートを実施し、内容についての結果をケア会議や運営推進会議で話し合い改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議を開催、職員の意見などを聞く機会を設けています。随時、面談にも応じています。	月1回のケア会議や、申し送り時に意見や要望を聞いている。管理者は職員の状況に応じて面談を行い、意見要望を聞いている。研修時のテキスト代や交通費や、資格取得に向けての支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役割分担を決め個々が責任、やりがいがあるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、防火管理者研修、上級救急など毎年1～2名が研修が受けられるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員不足により研修に参加出来なかったが今後は研修などに参加して他の同業者と交流したりグループホーム協議会に所属しネットワークに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の訪問、実態調査を行い本人、家族の困っている事、不安に思っている事の把握に努め本人、家族が安心出来る環境作りをする事で信頼関係を築く事に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安、要望などの聞き取りに時間をかけ信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に合わせ他のサービスについても時間を十分に取り相談対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを図る事で季節事の料理、調理を教わる事もある。下膳なども手伝って頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の行事、お花見、芋煮会など毎月のお手紙や来所した時に参加の呼びかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連絡を取り、出来るだけ馴染みの人、場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	家族と連絡をとり、要望にそって馴染みの場所へ出掛ける支援をしている。行きつけの理・美容院へは定期的に同行している。利用者の近所の人や親戚・知人の訪問もあり、馴染みの人との関係が途切れない様に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、交流を深め孤立しないように職員同士で情報を共有し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の交流はご家族の意向があれば対応する事としています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向について本人に聞き取りを行い意向に添える様に職員、ご家族で検討をしています。	情報収集ノート等で利用者の心身の状態を確認しながら、表情や行動で思いを把握している。職員は担当制であり、利用者の思いや意向を常に把握するよう努めており、家族に手紙を出したりしている。晩酌をしている利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、入所後も本人、ご家族より聞き取りを行い生活歴の把握に努めている。日常の会話からも生活歴もあるのでコミュニケーションを大事にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の小さな変化にも見落とさない様職員間での情報の共有、理解に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の質の向上、自立の促進なども含め個々にあったケアプランを作成する為本人、家族の意向要望を十分に踏まえたケアプランを作成しています。	半年に1回ケアプランを見直している。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。利用者の状態の変化に応じて随時見直しも行き、家族に説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に生活記録を作成し情報の共有、理解に努めている。その中で気づき、変化を話し合い介護計画の見直しに生かしたいと思っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間など特に制限せず家族の都合に合わせて面会、外出、外泊などして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の友人の面会、地域の方への行事への参加のお願いをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医だったり嘱託医と契約を結び週1回の看護師、月1回の往診の協力を頂いています。	ほとんどの利用者は協力医療機関がかかりつけ医である。医療連携が図られており、月1回の受診と、週1回の訪問看護師の健康管理は、利用者の安心に繋がっている。家族が受診に付き添う場合は、医師に利用者の状態を文書で伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看がありバイタルチェック、定期的に採血などを行い入居者の体調管理の変化に気をつけています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、退院時、家族と共にカンファレンスに参加、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師と話し合い適切な対応が出来る様支援しています。	重度化した場合には、医師や家族と話し合い対応する事になっているが、緊急時には協力医療機関の医師の指示により、病院への救急搬送をしている。24時間対応の医療連携が図られており、体制は整っているが、ホームでの看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変の可能性のある入居者は家族と話し合いを持ち対応マニュアルを作成しそれによって対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	冬季以外避難訓練を実施している(内1回は消防立ち合いや住民参加型の訓練)災害協定も結び地域の避難訓練にも参加しています。	火災・地震対応マニュアルはある。避難訓練は冬季以外は毎月実施し、年1回は消防署指導のもと住民も参加し実施している。地域の自治会や、近隣の福祉施設との災害協定を締結しており、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー情報は個人のファイルに綴じ扉のあるスチール棚で管理しています。	個人情報保護方針はある。新人研修では言葉遣いや話し方など接遇やプライバシー保護の徹底を図っている。呼び名は本人の希望で決めている。排泄介助はさりげなく行い、入室時はひと声かけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、行事への参加は本人に決定してもらえるような声掛け、参加を促しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望、意向の把握に努め可能な限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など自身の好みの物を選び購入出来る様に援助している。顔そり、染毛なども出来る範囲で支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事のメニューなど一緒に考えたり食べたい物を取り入れたりしています。	食事中は誤嚥予防のためテレビを消し、職員と一緒に摂っている。食材やメニュー、栄養チェックは業者に委託し、調理はホームで行っている。季節を感じながら食の楽しみを味わってもらう行事食やドライブがてらの外食は、利用者の楽しみのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたメニューで対応している。個々の状態に合わせた形態で対応している。(粥、刻み、パン)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、1人1人の状態に合わせて職員が付き添い口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせてトイレ誘導を行い支援している。夜間にはビックパットを使用するなど状態に合わせた対応をしています。	個々の排泄パターンを把握し、誘導している。夜間はパッドの工夫や、必要に応じた支援をしている。リハビリパンツから綿パンツに改善した利用者もいる。便秘対策は、医師の処方箋と食事に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛け、提供、野菜を取る様声掛けをしている。排泄表を作成、排尿便について記入主治医と相談し下剤などでコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	以前は毎日入浴していたがADLの低下もあり今は1日おきで対応している。体調不良、入浴日でない時には陰部洗浄をしています。	入浴は1日おきで、体調不良の場合は、清拭や足浴で対応している。季節によりゆず湯や菖蒲湯を楽しむ事もある。順番はローテーションを組み、入浴嫌いの利用者には、声掛けを工夫し誘導している。無理強いはしていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中無理のない運動、入居者同士、職員と散歩に出掛けたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の内容は個人のファイルにありいつでも確認出来る状態になっている、朝、昼、夕の容量、他の入居者と間違わない様に袋に名前を記入し、食後確認し準備をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の買い物、晩酌など楽しみ事の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、個々の買い物、受診に付き添いなど対応しています。	年間の外出計画をたて、楽しみながら出掛けられる様に支援している。車椅子対応の車を利用し、近隣の観光名所の花見だけではなく遠くの栗駒山にも紅葉ドライブに行っている。利用者の要望に応じて、佐沼までの買い物支援や散歩にも応えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に応じて買い物の付き添いをしたり購入したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい時には職員がダイヤルし確認後本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を食卓、玄関に飾ったり行事の写真を壁に貼ったりしています。	リビングや廊下の壁には、月毎の行事写真がたくさん貼られている。利用者の生き生きとした表情の写真はリビングを明るくしている。トイレは利用者の馴染みの「便所」と表示され3ヶ所ある。暖房は温風ヒーター、冷房はエアコンを使用し、温・湿度は適正に管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルにて入居者同志、談話をしたり編み物をしたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具、布団などを持ち込み使用しています。	居室は全室畳敷で、布団かベットは利用者の希望で決めている。エアコン、温風ヒーター、洗面台、クローゼットが設置されており、各自好みのものを持ち込んでいる。ソファで、テレビを、ゆっくりと観戦している利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動用のてすりを設置、トイレも分かりやすく表示しています。		